

## 平成25年度第2回北海道立生涯学習推進センター運営協議会の会議記録要旨(案)

### 1 開催日時

平成26年3月4日(火) 15:00～16:30

### 2 開催場所

札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2・7 (8階)  
北海道立生涯学習推進センター創作実習室

### 3 報告

- (1) 「ほっかいどう学」大学インターネット講座について
- (2) ほっかいどう学検定「ジュニア検定」の実施結果について

### 4 議事

- (1) 平成25年度事業実施状況(平成26年1月末現在)について
- (2) 平成26年度運営計画(案)について

### 5 配付資料

- ・報告資料1: 「ほっかいどう学」大学インターネット講座について
- ・報告資料2: ほっかいどう学検定「ジュニア検定」の実施結果について
- ・資料 1: 平成25年度事業実施状況(平成26年1月末現在)
- ・資料 2: 平成26年度運営計画(案)

### 6 出席者

- 北海道立生涯学習推進センター運営協議会委員(会長、以下委員五十音順)  
木村会長、石川委員、井上委員、佐藤委員、田中委員、成田委員、西澤委員、三上委員、民部委員
- 北海道立生涯学習推進センター(運営協議会事務局)  
村田所長、工藤主幹、天山主幹、薄葉主査、牧田主査、澤田主査、本田主査、米澤主任

### 7 審議等の概要

事務局による説明の後、委員が意見を述べた。主な発言は次のとおり。

(以下、発言順の記載 ○委員 ●事務局)

#### (1) 報告

##### ① 「ほっかいどう学」大学インターネット講座について

- 実行委員会経費は、大学の負担金と道の負担金によるとしていますが、道は別予算を組んでいるのですか。
- 現在の大学放送講座も、道民カレッジ委託事業として受託者との契約により行っており、大学放送講座を実施する場合は、受託者が大学と実行委員会を組織して実施することとして、契約金の中に道の負担金を見込んだ予算を組み込んでいます。
- 大学の負担金が、大学放送講座より減ることで、大学は参加しやすくなると思いますが、運営上はどうですか。
- テレビ放送で実施するよりは安くできると見込んでいます。

- DVDを全市町村に配付するとありますが、市町村ではうまく活用されるのでしょうか。
- 中心は、インターネットですので、DVDはそれを補完するものだと思います。
- インターネットの良いところは、身体に障害のある方たちなど多様な人たちがアクセスできることです。学びや意見を共有するようなシステムがあると、学習者の方たちも引き続き学びたいとか、新たな学びに繋がると思います。
- せっかくインターネットを活用するのですから、双方向的な関係が作れるインターネット上の広場のようなものも必要になるとは思います。新しい業者が面白い内容の番組を作るには、それなりの時間や努力が必要だと思いますので、まずは大学と業者等と一緒に協力しながら良い番組を作ることが大切だと思います。
- 講師や講座の評価について、例えば、受講者がインターネットで講座を受けた直後に感じたことをアンケートなどで伝えられることができれば、より良い意見を聞くことができるのではないかと思います。
- SNSを活用して、講座を見てすぐ感想やレポートを出せるようにしていく予定です。段階的にネットワークが広がればと考えています。
- 今の意見は、大事なことだと思いますが、これから進めていく上では、良い番組やプログラムを作ることが最初で、それを皮切りにしながらそういうことも考えていかなければならないと思います。

## ② ほっかいどう学検定「ジュニア検定」の実施結果について

- ジュニア検定について、受検者が非常に少ないように思います。受検者を増やすというところで今後インターネットを活用するとのことですが、受検者が少なかった問題点は何かあるのですか。
- 検定料を500円の有料で実施したこと、受検会場までの交通手段の問題、さらにPRの課題があると考えています。
- それが、決定的な理由ではないと思うのです。学校現場で、ほっかいどう学というものを広めるために、子どもたちの受検のモチベーションを上げる施策が行われていないのではないですか。もし、そうだとすれば行うべきだと思います。
- なかなか難しいと思います。例えば、漢字検定が急速に広がったことは、授業の中で取り組むことができたからですが、社会教育と学校教育の連携は、現場の先生にも御協力いただけて行くところが難しい部分だと思います。  
地域別の状況は、どうですか。たぶん熱心な先生が呼びかけをしていただいて受検者が集まった所とか、少ない所もいろいろ努力していただいて、このような結果になっていると思うのです。
- 今年度、本格実施するにあたり、チラシなどを全学校に配付して周知に努めました。根室市などの協力により100名程度が受検した所もありますが、地域によってバラつきがあります。これから回を重ねて浸透できるように対応したいと考えています。

- 地域の公民館なり学校の先生方と協力する体制を築けたら、呼びかけていただくことに繋がると思います。
- 子どもたちは、自分ではなかなか情報が入らないと思いますので、そういう呼びかけがないと受けられない。これからの北海道を担う小中学生が北海道の歴史や文化、自然環境に興味を持つきっかけづくりとして実施するという極めて崇高な目的があるのですから、教育現場も当然活用されるべきだと思います。受検者数を増やすということだけでなく、目的の達成に向けて、是非、教育現場と一体となって進めていただくようお願いいたします。
- 北海道は、地域や市町村によって歴史も文化も全部違いますし、地域や学校教育において、自分たちのまちの歴史や文化、北海道の歴史等に対する現状の課題もあります。子どもたちをどう取り込んでいくかは、これからの学校教育でもあり、社会教育でもあると思います。まず、これを手掛けたことを評価したいと思います。急に受検者を増やすことは、やはり難しいと思います。
- ジュニア検定の実施に関して、例えば、どのような設問を作るのか、どうやって小中学生に宣伝をしていくのかなど、小中学生の意見を聞くことによって、彼らのモチベーションも上がり、面白いアイディアも出てくると思います。
- 検定に参加した子どもたちや合格した子どもたちには、合格証書以外にご褒美はあるのですか。地域でそれぞれ工夫している事例はありますか。
- まだ、そこまではいいません。今回は、まず、インターネット上で問題を公開して、自由に勉強できるようにしました。3ヶ月で56,000件という多くのアクセスがあったということは、多くの子どもたちが興味・関心を持って勉強してくれたものと思っています。
- インターネットで公開した問題では、回答欄をクリックすると10問ごとに採点され、例えば「10問中9問正解おめでとう」とか「もっとがんばりましょう」などのコメントが出るようにシステムを作りました。
- 私の町では、学校にもポスターが貼られていましたが、子どもたちはよく見ていなかったようなので、興味のあるお母さん方にお話し、8名ほどの参加を募りました。受検に向けて、インターネットを使って子どもたちがお母さんと一緒に楽しんで勉強できるようにして、受検者全員の合格を町だよりでも紹介しました。次年度からは、合格者などを紹介するジュニア検定の掲示板をホームページに作り、ほかの子どもたちに刺激を与えたいと考えています。
- 丁寧に取り組んでいただいたところでは、受検者がいたということですので、学校の先生にどのようにしたら参加しやすいのか、市町村がどのような努力で受検者を確保したのかなどを参考にして対応することが大事だと思います。先生たちに、道教委の取組を知っていただき、授業の中で検定について紹介をしていただくだけで随分違うと思います。
- もう一つネックになったのが、500円の検定料が必要になることで、学校の先生方が紹介しにくかったことがあると思います。次回から、無料であれば、受検者が増えると思います。

- 札幌市では、全児童一人ずつに、子ども向けの講座を紹介する「子どもの学びガイド」を配布しています。子どもたちが家に持ち帰り、興味のある講座について話し合うことができますので、良いPRになっていると思います。
- 検定料の500円は、全体の事業にかかる割合からすると、大きなものではないかもしれませんが、検定料をとらないと受検者がたくさん増えて、事業を維持していく運営体制がとれるのかという問題も出てくるのではないかと思います。  
まず始めたことで、これからの課題が見えてくるとと思います。
- 無料でなくても良いと思います。今の子どもたちは、お小遣いを持っていて、自分の好きなことに使います。有料の場合に、自分でお小遣いを出していれば積極的に参加したいと思うだろうし、親もそうだと思います。
- いくつか課題も出てきましたので、引き続き、がんばって発展していただきたいと思っています。

## (2) 議事

### ① 平成25年度事業実施状況(平成26年1月末現在)について

- 研修は、昨年より参加者が増えていますが、企画がうまく成功した結果だと思っています。
- 教育メディアの利用促進に関して、新着教材の貸し出せる数は1タイトルで何本ぐらいあるのですか。
- それぞれ1本となります。
- 貸出は、官公庁や学校、社会教育関係団体などの団体が対象ですが、団体に対して貸し出せる数も1本ずつですか。貸出の期間は、どれぐらいありますか。
- 基本的に、1本ずつです。貸出の期間は、2週間です。
- 殺到して、借りられないことはありますか。
- 新しい教材では、少し申込みが重なることがあるかもしれませんが、私の経験では、困るほど殺到したことは、ありませんでした。

### ② 平成26年度運営計画(案)について

- ほっかいどう学地域活動推進講座は、道内2ヶ所を予定していますが、会場はまだ決まっていないのですか。
- オホーツク管内と根室管内を予定していますが、正式にはまだ決定していません。
- 道内2ヶ所の会場数は、これからも同じですか。
- その予定です。
- 大学インターネット講座に関して、北海道にはアジアやオーストラリアなどから多くの観光客が来ていますので、若い方々を含めて将来的に英語で案内や説明できる人材を育成するため、試験的に英語での講座を1講座設けるとか、ほっかいどう学検定でも

英語での検定を考えていくことも、人材育成や受検者の発掘に繋がると思います。

- 積極的なご提案ですので、コストの関係もあると思いますが、可能性も含めて、今後も検討していただき、注意深く丁寧に取り組むことが大切だと思います。
- 子どもの事業を増やしていただきたいと思います。道民カレッジに将来の国や道の担い手となる子どもを取り込んでいくには、子どもの事業を増やしていくことが必要だと思います。
- 道民カレッジでは、市町村で実施いただいている親子向けの事業や子どもを対象とした事業のほか、道立の青少年教育施設の事業なども連携講座としております。
- 社会教育は、学校支援が中心となっており、子ども対象の事業に積極的に取り組んでいますが、逆に成人だと手薄になっているという問題もあります。センターの役割を発揮することや先ほどの専門部会での子どもの間口を広げていくという意見も受け止めて、取り組んでいただければと思います。
- 基本方針の中で、市町村や高等教育機関及び産業界の連携とありますが、高等教育機関や産業界とは、具体的にはどういうところですか。
- 高等教育機関は、道民カレッジの経緯から、1994年から1996年の北海道地域リカレント教育推進事業の実行委員会には、大学だけではなく専門学校も入っていましたし、産業界も北海道経済連合会や北海道中小企業家同友会など、企業が様々な形で市民に生涯学習の機会を提供しておりますので、そのようなところと連携しています。
- その連携は、運営計画のどのようなところに現れているのですか。
- 企業が企画した学習機会を道民カレッジの連携講座として道民に提供していることも連携の一つです。  
これからインターネットを活用した道民カレッジが始まることによって、新しい可能性や課題などが出てくると思いますが、積極的に対応して平成26年度の事業を進めていただきたいと思います。

ほかにご意見がなければ、以上を持ちまして、本日の議事を終了いたします。